

○計画期間:令和3年4月～令和9年3月（6年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和3年4月以降、認定基本計画に基づき、「広域的な交流の活性化と賑わいと活力ある商業地の再生」の目標のもと、計88の各種事を実施し、中心市街地の活性化を図ってきた。

まちなか全体では、商店街や若者へのイベント支援により、駅前通りやまちなか広場周辺で週末を中心に賑わいを見せ、「休日の歩行者・自転車通行量」は目標値を上回る結果となっている一方で、通り毎の通行量を見ると、国道13号東側各通りで減少しており、駅周辺で生まれた賑わいが、周辺商店街へ十分に波及していない。

また、継続的に実施している「商店街エリア価値向上支援事業」等、起業・創業者への効果的な支援により新規出店数が増加し、さらに令和5年度より始動したこくりナビ等により、まちなかでの学生の参画機会が創出され、「計画掲載事業を活用した出店数」、「まちづくり活動に参画する学生数」は、目標値を上回る結果となった。

しかし、「居住人口の社会増減数」は、昨年度と比較すると減少しているため、今後は、点在する低未利用地を集約するなど有効な土地利用への転換を促し、民間による開発を促進し、また、都市機能を誘導する支援等により、魅力や生活利便性を高めることで、居住者の定着を促進し、目標達成につなげていく。

令和8年2月には吾妻通りをほこみちに指定し、道路空間の柔軟な活用が可能となったことや、まちなかの主な通りにAIカメラを設置し、歩行者等の通行量を年間通して計測することにより、販促施策や出店計画等の様々な活用方法が可能となり、今後のまちなかのにぎわい創出に寄与する取り組みを実施した。

さらに、令和6年度に完成した市民センターは、会議やレクリエーション、イベントなどにより多くの市民に利用され、賑わい創出に寄与している。

一方で、福島駅東口再開発事業の当初計画からの遅れや西口商業施設跡地の利活用が不透明な状況であることや、イベント等で駅前通りやまちなか広場周辺で生まれた賑わいが、周辺商店街へ十分に波及していないことが課題となっている。

今後は、地域経済を動かす起爆剤である福島駅東口再開発事業の見直しを工期の遅延が最小限になるよう速やかに進め、県都の顔として福島駅周辺の価値を高めるとともに、駅西口に出店したロピアや6月に駅東口に出店予定のメガドン・キホーテ等による賑わいをまちなか全体に波及させるため、これまで実施してきたシェアサイクルやメロディーバス、パークアンドライド等の回遊性を高める取り組みや新規出店への支援に加え、ウォーカブル推進事業等により官民連携で賑わいをまちなか全体に広げていく回遊性を高める取り組みを推進し、人流や賑わいを「点」から「線」、「線」から「面」へと広げて

いき、中心市街地の活性化を目指していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（１）居住人口

（基準日：毎年１月１日）（単位：人）

中心市街地 区域	令和２年度（計 画前年度）	令和３年度 （１年目）	令和４年度 （２年目）	令和５年度 （３年目）	令和６年度 （４年目）	令和７年度 （５年目）
人口	8,573	8,571	8,865	8,744	8,583	8,462
人口増減数	-6	-2	294	-121	-161	-121
自然増減数	-97	-57	-51	-72	-90	-84
社会増減数	91	55	345	-49	-71	-37
転入者数	491	466	609	460	481	488
転出者数	443	426	458	452	471	472
転居入者数	495	458	578	355	395	296
転居出者数	452	443	384	412	476	349

（２）空き店舗数

（毎年１２月調査）（単位：店舗）

調査地点		令和２年度 （計画前年度）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
本 町	空き店舗総数	9	9	6	7	6	6
	貸出可能空き店舗数	4	7	4	3	6	6
大 町	空き店舗総数	23	18	17	14	12	17
	貸出可能空き店舗数	4	7	4	2	8	10
置 賜 町	空き店舗総数	18	28	26	20	27	25
	貸出可能空き店舗数	5	14	16	11	23	21
新 町	空き店舗総数	27	25	20	21	21	17
	貸出可能空き店舗数	5	8	7	6	8	7
万 世 町	空き店舗総数	18	14	16	21	17	13
	貸出可能空き店舗数	8	5	6	11	12	10
栄 町	空き店舗総数	15	20	15	19	14	12
	貸出可能空き店舗数	3	6	5	14	11	11
合 計	空き店舗総数	110	114	100	102	97	90
	貸出可能空き店舗数	29	47	42	47	68	65

(3) 低未利用地数

(毎年 12 月調査) (単位 : ヶ所)

調査地点	令和 2 年度 (計画前年度)	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
本町	5	5	5	5	5	5
大町	9	11	11	11	11	11
置賜町	5	4	4	5	5	5
新町	9	7	7	8	8	8
万世町	5	5	5	5	5	5
栄町	2	2	2	3	3	3
合計	35	34	34	37	37	37

※平成 23 年度以降、増加した低未利用地

(4) 公示地価

(基準日 : 毎年 1 月 1 日) (単位 : 円/㎡)

区分	調査地点	令和 2 年度 (計画前年度)	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
中心市街地内	宮下町 106-2	82,600	84,800	87,000	-	-	-
	宮下町 98-5	-	-	-	95,000	97,500	99,500
	陣場町 61-18 外	88,000	88,000	88,500	89,000	90,100	91,900
	栄町 26-21 外	240,000	245,000	248,000	251,000	253,000	256,000
	置賜町 51-1	-	-	-	-	-	-
	置賜町 27-2	108,000	107,000	108,000	111,000	116,000	121,000
	新町 73-13	87,300	86,700	87,000	88,500	89,900	91,200
中心市街地周辺	三河南町 1-11	-	-	-	-	-	-
	三河南町 1-9 外	154,000	155,000	156,000	156,000	162,000	168,000
	野田町 2-189-3	90,400	92,500	96,000	99,800	103,000	106,000
	東浜町 223-4	61,900	62,000	62,000	62,600	63,400	63,900
	中町 31-2 外	77,900	78,500	79,400	80,500	83,900	87,200
	五月町 39-21	79,600	80,300	80,900	81,800	84,400	87,300

2. 令和7年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化基本計画の過去 1 年間の取り組みにおいては、目標指標である「まちづくり活動に参画する学生数」及び「計画掲載事業を活用した出店数」が計画期間の満了を待たずに目標を達成しており、「休日の歩行者・自転車通行量」についても目標達成が視野に入りつつあるなど、一定の成果が認められる。

一方で、「居住人口の社会増減数」が目標値を下回っている点、国道 13 号線より東側における「休日の歩行者・自転車通行量」が減少している点は、更なる取組が必要な状況であると考ええる。民間によるマンション供給が鈍化していることへの対策や、より一層の中心市街地の回遊性の促進を期待する。

更に、今後は商店街における新規出店や起業・創業の機運の高まりが一定程度継続するよう、「商店街エリア価値向上支援事業」等に引き続き注力しつつ、再開発事業の進行期間における賑わい創出や回遊性向上の下地づくりに取り組み、再開発のオープンによる波及効果がエリア全体に広がり、「県都ふくしま」としての魅力と機能が一層向上することを期待する。

一方、令和 11 年度完成予定の福島駅東口再開発事業については、更なる計画の見直しを検討されており、福島駅西口におけるイトーヨーカドー福島店跡地についても、未だ利活用の方向性が見えない状況である。

福島駅東口再開発事業は、中心市街地への来訪者の増加や賑わいの創出に大きく寄与する事業であるため、その遅延は中心市街地活性化に重大な影響を及ぼすものと考えられる。そのため、1 日も早く事業が完遂し、現在進められている、福島駅新東西自由通路の検討とあわせて、福島駅周辺の活性化と賑わいの再生と、東西が一体となった魅力的な都市空間の形成が図られ、「県都ふくしまの顔」としてふさわしい拠点となることを期待する。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況 ※1	目標達成に関する見直し※2	
						前回の見直し	今回の見直し
広域的な交流の活性化と賑わいと活力ある商業地の再生	休日の歩行者・自転車通行量	13,690人/日 (R2)	16,400人/日 (R8)	18,899人/日 (R7)	<u>a</u>	<u>a</u>	<u>a</u>
	居住人口の社会増減数	-12人/年 (H27～R1平均)	44人/年 (R3～R8平均)	37人/年 (R3～R7平均)	<u>b</u>	<u>a</u>	<u>a</u>
	まちづくり活動に参画する学生数 (計画掲載事業)	一人 (R1)	350人 (R3～R8累計)	619人 (R3～R7累計)	A	A	A
	計画掲載事業を活用した出店数	一店舗 (R1)	18店舗 (R3～R8累計)	136店舗 (R3～R7累計)	A	A	A

< 基準値からの改善状況 (※1) >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況 (※1) >」、< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いている。(例：a、b、c)

2. 目標達成見通しの理由

(休日の歩行者・自転車通行量)

令和7年度の歩行者・自転車通行量は前年度から増加しており、18,899人/日と令和8年目標値の16,400人/日を昨年度に引き続き上回る結果となった。駅周辺で多くのイベントが開催され、多数の来街者で賑わっていたことや、新規出店に対する支援により個性的で魅力的な新たな店舗が集積されたこと、シェアサイクルやメロディーバス、パークアンドライド等、面的回遊を促す施策により、賑わい創出と回遊性の向上に寄与したことが要因と考えられる。

一方で、通り毎の通行量を見ると、国道13号東側各通りで減少しており、駅周辺で生

まれた賑わいが、周辺商店街へ十分に波及していない。

今後とも継続的にこれらの事業を実施していくとともに、ウォーカブル推進事業等により官民連携で賑わいをまちなか全体に広げていく回遊性を高める取り組みを推進し、人流や賑わいを「点」から「線」、「線」から「面」へと広げていくことにより、目標（16,400人/日）達成はにつなげていく。

（居住人口の社会増減数）

令和3年度から令和7年度の居住人口の社会増減数の平均は37人/年となった。

今後は、点在する低未利用地を集約するなど有効な土地利用への転換を促し、民間による開発を促進する。また、都市機能を誘導する支援等により、魅力や生活利便性を高めることで、居住者の定着を促進し、目標（令和3～8年度平均：44人/年）達成につなげていく。

（まちづくり活動に参画する学生数（計画掲載事業））

令和7年度におけるまちづくり活動に参画した学生数（計画掲載事業を活用したもの）は187人と、年々増加傾向であり、令和3年度から令和7年度の累計参画者数は619人と目標（令和3年度から令和8年度の累計参画者数350人）を達成した。

今後は、学生に向けた情報発信に注力し、学生が自らの感性で主体的に企画や、活動しやすい環境や体制を定着させ、更なる参画数の増加につなげていく。

（計画掲載事業を活用した出店数）

エリア価値向上地区で「商店街エリア価値向上支援事業」を活用して出店した店舗の累計数は、2年目の令和4年度に既に目標の18店舗を上回る40店舗を達成し、令和7年度には累計136店舗に至っている。

今後も引き続き、新規出店に対する家賃補助内外装工事補助等の支援により、魅力的な個店の増加をつなげていくとともに、さらに新規オフィスへの開設支援や、「まちなか立地集積支援事業」により、民間投資を呼び込み魅力あるまちづくりを創出していくことで、更なる新規出店数の増加につなげていく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

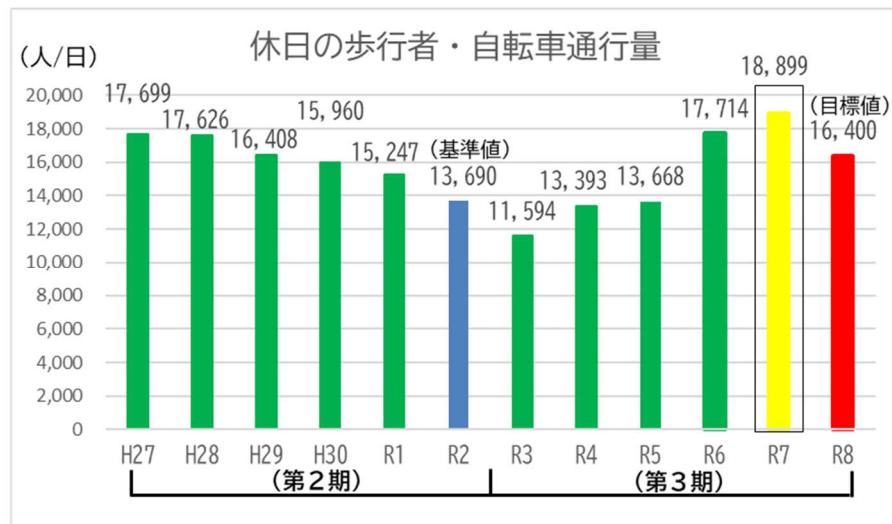
前回のフォローアップと見通しが変わっていない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「休日の歩行者・自転車通行量」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 83～P. 86 参照

●調査結果と分析



年	通行量 (人/日)
R2	13,690 (基準年値)
R3	11,594
R4	13,393
R5	13,668
R6	17,714
R7	18,899
R8	16,400 (目標値)

※調査方法：休日（日曜日）の1日間の午前8時～午後7時（11h）までの通行量を測定

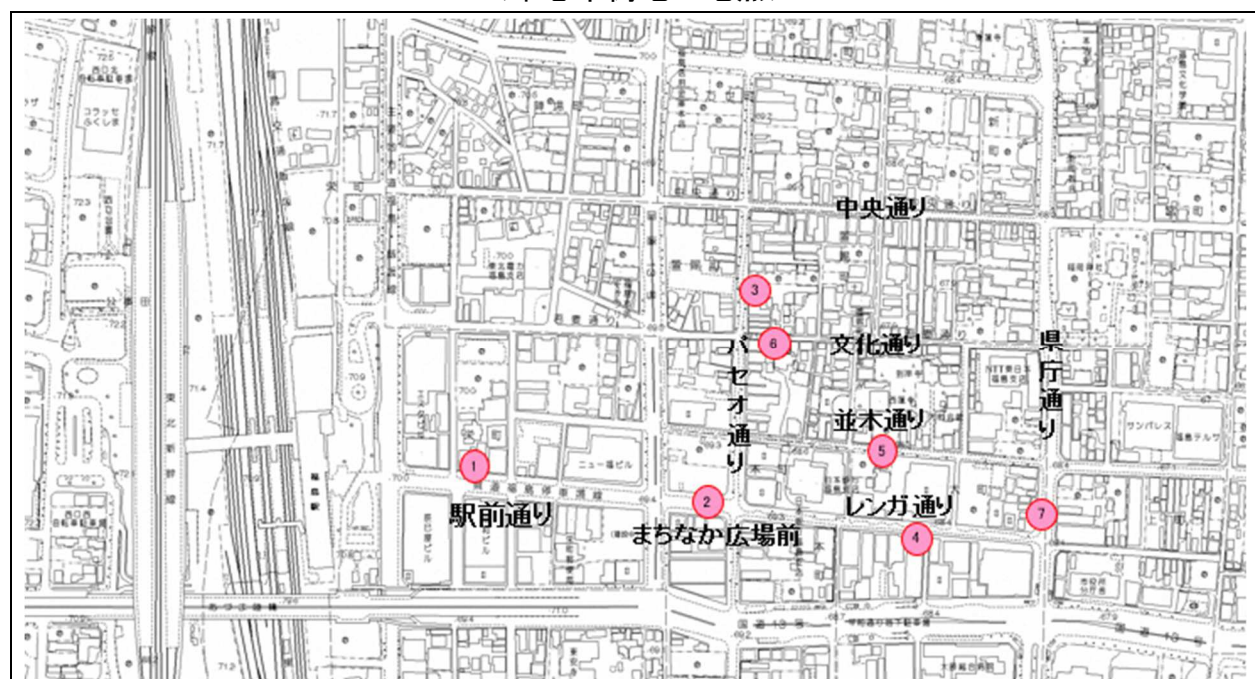
※調査月：各年7月

※調査主体：市

※調査対象：中心市街地エリア内計7カ所

①駅前通り、②まちなか広場前、③パセオ通り、④レンガ通り、⑤並木通り、⑥文化通り、⑦県庁通りにおける歩行者及び自転車の通行量

<中心市街地7地点>



＜中心市街地 7 地点の歩行者・自転車通行量＞

(単位：人/日)

	令和 2 年度 (計画前年度)	令和 3 年度 (1 年目)	令和 4 年度 (2 年目)	令和 5 年度 (3 年目)	令和 6 年度 (4 年目)	令和 7 年度 (5 年目)	令和 8 年度 (6 年目)
① 駅前 通り	4,687	4,472	5,506	4,675	5,820	8,777	—
② まち なか広 場前	2,418	2,013	2,225	2,466	2,400	3,523	—
③ パセ オ通り	1,748	1,380	1,302	1,578	2,724	2,292	—
④ レン ガ通り	1,162	611	921	989	1,273	838	—
⑤ 並木 通り	1,055	1,068	912	1,113	1,550	1,006	—
⑥ 文化 通り	1,251	1,068	1,230	1,520	2,117	1,301	—
⑦ 県庁 通り	1,369	982	1,297	1,327	1,830	1,162	—
合計	13,690	11,594	13,393	13,668	17,714	18,899	—

＜分析内容＞

令和 7 年度の歩行者・自転車通行量は前年度から増加しており、18,899 人/日と、令和 8 年度の目標値 16,400 人/日を上回る結果となった。

調査地点別で見ると調査地点全 7 地点の内、2 地点で増加しており、前年比では①駅前通りで 50.8%増と最も増加率が高く、次いで、②まちなか広場前で 46.8%増となっている。

一方、他調査地点 5 地点（③～⑦）は、前年比で減少している。

特にパセオ通り、文化通り、県庁通りなどは、中心市街地エリアの中でも、人を惹き付ける魅力ある個店が集積し、歩くほどに発見がある路地エリアがあるが、通行量が前年比で減少している。

これは、①②地点が位置する駅周辺で多くのイベントが開催され、多数の来街者で賑わっていたことや新たな出店により、一定の回遊効果が生まれたものと推察できるが、駅周辺で生まれた賑わいをまち全体に波及できていないことは、来街者が目的のイベントや店舗にのみ来街し、すぐに立ち去ることなどが、回遊性の低下を招いているものと推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ポケットパーク整備事業（事業実施主体：福島市）【令和４年度追加】

事業実施期間	令和５年度～令和６年度【済】
事業概要	閉鎖された公共施設をイベント等に活用可能なポケットパークとして再整備することにより、来訪者の増加につなげ、目標「広域的な交流の活性化と賑わいと活力ある商業地の再生」に寄与できる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和５年度～令和６年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：－ 進捗状況：令和６年度完成。
事業の今後について	各種イベントと連携しながら、街なかの集客と回遊性の向上につなげていく。

②. 福島駅東口地区第一種市街地再開発事業（事業実施主体：福島駅東口地区市街地再開発組合）

事業実施期間	令和元年度～令和８年度【実施中】
事業概要	都市基盤の整備や土地の高度利用を促進し、官民連携による再開発事業により、商業・オフィス・ホテル・マンション・公益施設・立体駐車場などの都市機能の充実、賑わいの創出などを図り、県都ふくしまの顔となる市街地再開発事業を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）（防災・省エネまちづくり緊急促進事業）（国土交通省）（令和元年度～令和８年度） 〔認定基本計画：社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）（国土交通省）（令和３年度～令和８年度）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：2,756人/日（休日）（駅前通り（笑笑前）） 最新値：－ 進捗状況：基本設計完了。
事業の今後について	見直し方針に沿った基本設計に基づき、より魅力的で使いやすく駅前の顔・シンボルとなるよう、また、フレキシブルに使えるようコスト縮減の工夫をしながら詳細な検討を進めている。事業期間中は、引き続き「商店街エリア価値向上支援事業」などにより、まちなかの賑わい創出を図る。

③. 福島駅前交流・集客拠点施設整備事業（事業実施主体：福島市・福島駅東口地区市街地再開発組合）

事業実施期間	令和元年度～令和８年度【実施中】
事業概要	福島駅東口地区第一種市街地再開発事業と連携し、再開発ビル内に交流・集客拠点を官民連携で整備することで交流人口の拡大を図り、中心市街地の賑わいの創出を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（令和５年度～令和８年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：2,756人/日（休日）（駅前通り（笑笑前）） 最新値：－ 進捗状況：基本設計完了。
事業の今後について	見直し方針に沿った基本設計に基づき、より魅力的で使いやすく駅前の顔・シンボルとなるよう、また、フレキシブルに使えるようコスト縮減の工夫をしながら詳細な検討を進めている。

④. 新まちなか広場整備事業（事業実施主体：福島市）

事業実施期間	令和２年度～令和４年度【済】 〔認定基本計画：令和２年度～令和３年度〕
事業概要	多様なイベントの開催や日常の憩いの場の提供、文化的で美しい街並みや歩行空間の形成、指定緊急避難場所としての防災機能を併せ持つことにより、街なかの「賑わいの拠点」「市民の交流拠点」「回遊軸の拠点」「防災広場」として位置づけるもので、中心市街地の集客や回遊性の向上に寄与する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（都市防災総合推進事業）（令和２年度～令和３年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：270人/日（休日）（まちなか広場前） 最新値：270人/日－ 進捗状況：令和７年度における休日の来場者数は、103,785人と中心市街地の賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	駅前通りや吾妻通り「ほこみち」との相乗効果による集客や回遊性の向上を目指す。

⑤. パークアンドライド事業（事業実施主体：福島市地域公共交通活性化協議会）
【令和4年度追加】

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の外縁部に確保した駐車場から、公共交通やシェアサイクルで街なかと往来できるようにすることで、目標「広域的な交流の活性化」に資する事業に位置付けられる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年4月～令和9年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：－ 最新値：5,194人 進捗状況：令和7年3月22日～令和7年12月7日まで87回実施し、延べ利用者数5,194人（2,043組）と中心市街地の賑わいや回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	シェアサイクル推進事業や各種イベント開催事業などと連携しながら、まちなかの回遊性の向上を図っていく。

⑥. 福島駅周辺自転車駐車場整備事業（事業実施主体：福島市）【令和5年度追加】

事業実施期間	令和6年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心市街地の交通結節点である福島駅の近傍に自転車駐車場を整備することで、目標「広域的な交流の活性化」に資する事業に位置づけられる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和6年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：－ 進捗状況：実施中。
事業の今後について	シェアサイクル推進事業などとともに街なかの回遊性を高め、自転車利用環境の向上を図っていく。

⑦. シェアサイクル推進事業（事業実施主体：福島市）

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	バスや鉄道交通を補完する移動手段として、電動アシスト付き自転車とスマートフォンによるIOTを活用し、決められた場所ならどこでも返却可能なシェアサイクルを推進し、街なか回遊性と自転車利用環境の向上による中心市街地の活性化に寄与する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年4月～令和9年1月） デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）（令和5年度～令和6年度）

	地方創生推進交付金（内閣府）（令和３年度～令和４年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（令和３年度～）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：－ 最新値：35,290 回 進捗状況：令和７年度の利用実績は、35,290 回（会員登録者数計：20,742 人）と中心市街地の回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	シェアサイクル車両へ民間広告の掲載を実施中。サイクルポートの増設予定。今後も更なる利用実績を伸ばしていく。

⑧. 古閑裕而を活かしたまちづくり事業（メロディーバスの運行）

（事業実施主体：福島市）【令和３年度追加】

事業実施期間	令和４年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の買い物や点在するドラマロケ地等を巡るツールとして、古閑コンテンツをつなぐ周遊ルートで音楽をモチーフとしたメロディーバスを運行することで、中心市街地の回遊性の向上に寄与する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和６年４月～令和９年１月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：144 人/日 最新値：184 人/日（歩行者・自転車通行量（92 人×2（往復）） 進捗状況：令和７年４月１日～令和８年３月末までの乗車人数の実績値は、33,737 人（運行日数 365 日）と１日あたりの乗車数が 92 人であり、事業目標値を達成した。
事業の今後について	メロディーバスを１台増設したことにより、更なる利用促進を図り、街なかの回遊性向上につなげていく。

⑨. 中心市街地活性化交通支援事業（事業実施主体：福島市、福島交通㈱）

事業実施期間	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を循環する路線バスに対し運行経費の一部を補助し、一乗車あたりの運賃を 100 円とすることで、公共交通の利用促進及び中心市街地の回遊性の向上に寄与する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和６年４月～令和９年１月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：－ 最新値：573,244 人（令和７年度利用者数） 進捗状況：ダイヤ減便の影響もあり令和６年度利用者数 595,735 人からは減少したが、市内で最多の利用者数がある路

	線であり、中心市街地の回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	今後も利用促進を図り、街なかの回遊性向上につなげていく。

⑩. ふくしまシティハーフマラソン（事業実施主体：ふくしまシティハーフマラソン実行委員会）

事業実施期間	令和５年度～【実施中】
事業概要	市の魅力を全国へ発信し、スポーツ文化の醸成をはじめ地域経済の活性化や交流人口の拡大を図るとともに、パラスポーツの推進による共生社会の実現を目的に中心市街地を駆け抜けるマラソン大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年４月～令和９年１月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：5,325人（募集人数） 最新値：5,355人（エントリー数） 進捗状況：令和７年度は過去最多のエントリーとなり、前日祭や関連イベント、宿泊なども含め中心市街地の回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	3km部門の新設など今後も魅力ある大会運営に努め、関係機関と連携しながら、街なかの回遊性の向上につなげていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車通行量は４年連続で回復傾向であることは、これまで、産学官民が連携し継続的に取り組んできたイベントを始め、シェアサイクルやメロディーバス、パークアンドライド等の面的な回遊を促す取り組みのほか、新規出店等の効果の現れともいえる。

今後は、地域経済を動かす起爆剤ともいえる福島駅東口再開発事業の供用開始までの間、引き続き、新規出店を支援する家賃補助や内外装工事補助等により、エリア全体の魅力を高め、来街者が「歩いてめぐる」動機を作り出す取り組みを進める。

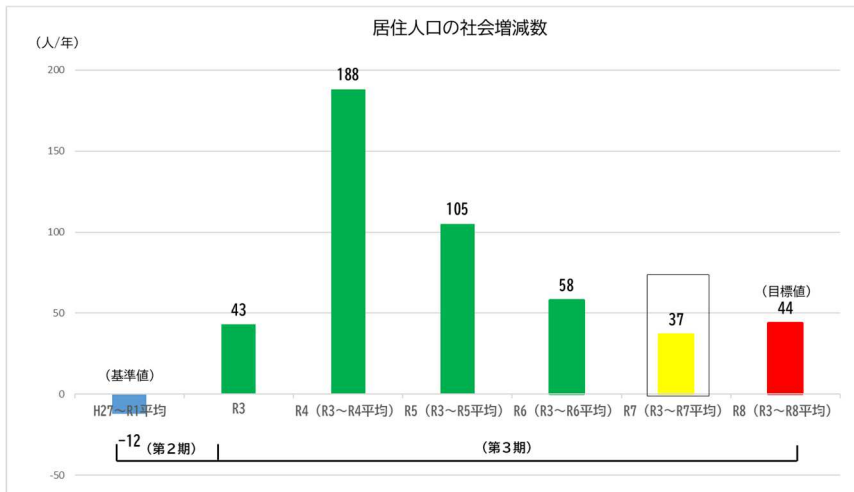
更に、現在、福島駅新東西自由通路の検討も進められていることから、東西が一体となった魅力的な都市空間の創出を目指すとともに、居心地よく歩きたくなるまちなかの形成に向けて、ウォーカブル推進協議会等により、官民連携で歩行者の利便性・まちの回遊性を高める取り組みを模索していく必要がある。

また、「まちなか人流データ活用事業」により、エリア内のきめ細かな人の流れを可視化し、データに基づいた回遊性・滞留性を高める施策の立案や評価が可能になったことから、民間事業者の活用を促進していくとともに、道路空間の新たな利活用である「ほこみち」などにより、ベンチやテーブルの設置、キッチンカーやマルシェなどの催しで人が滞在し、楽しむ、集いの場へと進化させ、人流や賑わいを「点」から「線」、「線」から「面」へと広げていくことにより、目標達成を目指す。

（２）「居住人口の社会増減数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 87～P. 88 参照

●調査結果と分析



年	社会増減数 (人/年)
H27～ R1 平均	-12 (基準年値)
R3	43
R4 (R3～ R4 平均)	188
R5 (R3～ R5 平均)	105
R6 (R3～ R6 平均)	58
R7 (R3～ R7 平均)	37
R8 (R3～ R8 平均)	44 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳から年間の増減数を集計

※調査月：各年１月

※調査主体：市

※調査対象：中心市街地

＜第３期中心市街地活性化基本計画エリアの年間居住人口＞

(単位：人)

	令和２年度 (計画前年 度)	令和３年度 (１年目)	令和４年度 (２年目)	令和５年度 (３年目)	令和６年度 (４年目)	令和７年度 (５年目)	令和８年度 (６年目)
御倉町	132	130	132	119	115	110	—
杉妻町	7	6	6	7	7	7	—
栄町	287	272	273	269	255	257	—
置賜町	118	106	97	99	100	99	—
本町	107	98	98	102	97	91	—
大町	127	152	157	147	144	143	—
新町	489	477	480	484	475	462	—
万世町	210	286	346	346	343	342	—
陣場町	415	394	403	397	388	389	—
森合町	499	492	486	450	325	314	—
天神町	732	746	766	772	782	766	—
宮下町	752	748	731	710	710	703	—
上町	123	119	120	109	105	106	—
仲間町	688	656	736	743	753	776	—

宮町	155	155	160	155	155	143	—
新浜町	388	414	575	580	589	582	—
松木町	406	399	392	396	390	380	—
五老内町	164	170	159	155	151	149	—
霞町	348	330	324	305	310	298	—
太田町	1439	1,416	1,433	1,447	1,453	1,406	—
三河南町	524	528	520	500	503	505	—
三河北町	463	477	471	452	433	434	—
合計	8,573	8,571	8,865	8,744	8,583	8,462	—

＜第3期中心市街地活性化基本計画エリアの年間居住人口社会増減数＞

(単位：人/年)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)	令和8年度 (6年目)
御倉町	6	-1	3	-14	-3	-6	—
杉妻町	0	-1	0	1	0	0	—
栄町	-8	-13	1	0	-10	-1	—
置賜町	-16	-10	-7	5	2	1	—
本町	-2	-4	1	10	-3	1	—
大町	47	21	0	-11	-4	0	—
新町	28	-12	4	5	-10	-12	—
万世町	-2	81	57	0	-3	-2	—
陣場町	-5	-19	13	-4	-3	3	—
森合町	-9	-3	-5	-32	-122	-7	—
天神町	-4	12	23	7	16	-9	—
宮下町	2	3	-8	-15	9	0	—
上町	7	-3	4	-8	-3	2	—
仲間町	-32	-29	84	11	13	29	—
宮町	9	3	7	-5	1	-7	—
新浜町	-9	31	167	3	17	-8	—
松木町	10	2	2	14	9	-4	—
五老内町	11	11	-7	-1	2	-1	—
霞町	6	-18	-1	-16	7	-1	—
太田町	-34	-14	25	32	26	-24	—
三河南町	89	-1	-12	-14	3	3	—
三河北町	-3	19	-6	-17	-15	6	—
合計	91	55	345	-49	-71	-37	—

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口は、令和6年度から令和7年度にかけて8,583人から8,462人へと121人減少し、このうち社会増減は37人の減少となっている。これにより、令和3年度からの社会増の平均は37人/年となった。地区別にみると、令和6年度から令和7年度にかけて全22地区のうち9地区で増加、11地区で減少、2地区で増減の変化がなかった。

背景として、令和3年度に完了した「新浜町地区優良再開発型優良建築物等整備事業（87戸）」の目標を上回る入居があった一方で、細分化した低未利用地が多く点在しマンションなどを建設する適当な土地がないことが、民間による開発が進まない要因の一つと考えられる。

また、資材価格の高騰等の影響により、民間によるマンション供給も鈍化していることも影響していると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 福島駅東口地区第一種市街地再開発事業（事業実施主体：福島駅東口地区市街地再開発組合）

事業実施期間	令和元年度～令和8年度【実施中】
事業概要	都市基盤の整備や土地の高度利用を促進し、官民連携による再開発事業により、商業・オフィス・ホテル・マンション・公益施設・立体駐車場などの都市機能の充実、賑わいの創出などを図り、県都ふくしまの顔となる市街地再開発事業を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）（防災・省エネまちづくり緊急促進事業）（国土交通省）（令和元年度～令和8年度） 〔認定基本計画：社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）（国土交通省）（令和3年度～令和8年度）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：151人 最新値：一人 進捗状況：基本設計完了。
事業の今後について	見直し方針に沿ってより魅力的で使いやすく駅前の顔・シンボルとなるよう、また、フレキシブルに使えるようコスト縮減の工夫をしながら詳細な検討を進めている。 住宅建設戸数については、108戸が整備予定されていることから、本事業の着実な推進を図るとともに、事業期間中は、引き続き「商店街エリア価値向上支援事業」などにより、まちなかの賑わい創出を図る。

②. 新浜町地区優良再開発型優良建築物等整備事業（事業実施主体：新浜町地区再開発ビル建設協議会）

事業実施期間	令和元年度～令和３年度【済】
事業概要	バリアフリーの分譲マンション及び都市福利施設を整備することにより、中心市街地の住環境の向上に大きく寄与する事業である。 分譲住宅（２～４LDK、８７戸）、クリニック、立体駐車場 RC造地上１９階建
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良再開発型優良建築物等整備事業 共同化タイプ（新浜町地区））（国土交通省）（令和３年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：１５７人 最新値：２００人 進捗状況：令和７年１月時点で、２００人（店舗除く８７世帯）の入居実績があり、街なか居住の推進に寄与している。
事業の今後について	まちの活力の維持・向上を図るため、商業等機能を拡充し、生活の利便性を高めることで、居住者の定着及び魅力ある暮らしやすい中心市街地の形成を図る。

③. 太田町地区市街地住宅供給型優良建築物等整備事業（事業実施主体：（有）アスク）

事業実施期間	令和７年度～令和８年度【未】
事業概要	令和元年に整備された複合施設のはす向かいに新たな店舗を兼ねた住居を整備することで、周辺の商店街の賑わいに寄与する事業である。 １階店舗、２～５階賃貸住宅
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地共同住宅供給事業（国土交通省）（令和７年度～令和８年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：２９人 最新値：－ 進捗状況：社会情勢を見ながら事業実施の可能性について検討中。
事業の今後について	令和元年太田町地区市街地住宅供給型優良建築物等整備事業により、賃貸住宅が整備された。１９戸全ての入居が完了し、１階に店舗（酒屋）、飲食店（パン屋、カフェ）が出店したことにより生活環境の向上、快適居住の促進に寄与した。 事業実施期間中は近隣商店街によるイベントを実施していくことにより、賑わい創出を図っていく。 本事業は、近年の資材高騰により、十分な収支が見込めないことから事業を延期しており、今後は状況の推移を慎重に見極め、整備の時期を検討する。

④. 上町北地区分譲住宅等整備事業（事業実施主体：株式会社東北パートナーズリアルエステート）【令和５年度追加】

事業実施期間	令和５年度～令和８年度【実施中】
事業概要	共同住宅と駐車場を整備し、街なかの居住人口と来街者が増えることにより、目標「広域的な交流の活性化と賑わいと活力ある商業地の再生」に資する事業に位置付けられる。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置なし」
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：一人 最新値：－ 進捗状況：建築工事に着手中。
事業の今後について	101戸の住宅供給が予定されていることから、街なか居住の推進につなげていく。（令和９年度完成予定）

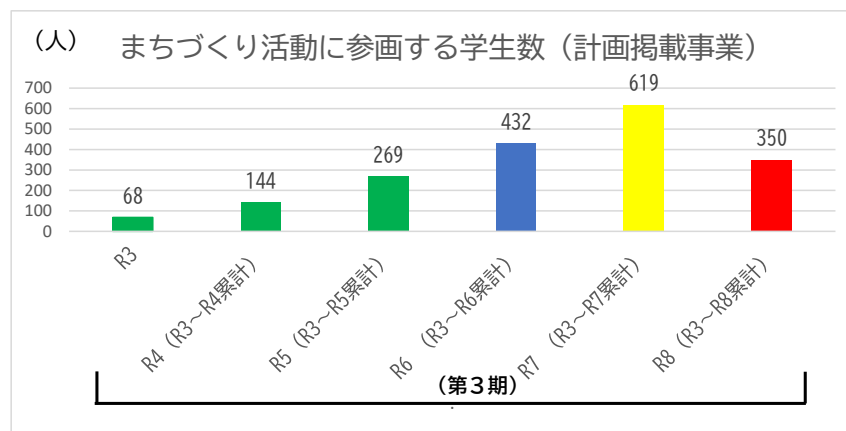
●目標達成の見通し及び今後の対策

今後、福島駅東口再開発事業（108戸）や「上町北地区分譲住宅等整備事業（98戸）」は、計画期間内の完了が見込まれないが、その間、まちなか居住が停滞しないよう、点在する低未利用地を集約するなど有効な土地利用への転換を促し、民間による開発を促進する。また、都市機能を誘導する支援（まちなか立地集積支援事業）等により、魅力や生活利便性を高めることで、居住者の定着を促進し、目標（令和３～８年度平均：44人/年）の達成につなげていく。

(3)「まちづくり活動に参画する学生数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 89～P. 90 参照

●調査結果と分析



※調査方法：商店街の店舗や魅力を創出するアイデアを募るための指標を学生の参画人数とする

※調査月：各年3月

※調査主体：市

※調査対象：福島大学、福島県立医科大学、福島学院大学、桜の聖母短期大学等の学生

●調査結果と分析	学生数 (人)
R1	一人 (基準年値)
R3	68
R4 (R3～R4 累計)	144
R5 (R3～R5 累計)	269
R6 (R3～R6 累計)	432
R7 (R3～R7 累計)	619
R8 (R3～R8 累計)	350 (目標値)

<まちづくり活動参画数・参加者数>

(単位：人)

中心市街地全般の活動人数 (累計)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
参考指標	60人 (120人)	120人 (240人)	180人 (360人)	240人 (480人)	300人 (600人)	350人 (700人)
実績数	68人 (301人)	144人 (580人)	269人 (1,204人)	432人 (2,211人)	619人 (2,665人)	—

※上段：計画掲載事業に参画する学生数、下段 ()：参加学生数

※計画期間が5年10か月であるため、最終年にあたる令和8年の目標数は、50人とする。

＜計画掲載事業を活用したまちづくり活動参画・参加学生数＞

(単位：人)

まちづくり活動名称	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	参画数	参加数	参画数	参加数	参画数	参加数	参画数	参加数	参画数	参加数
市民コンシェルジュ・ジュニア			4	4	2	2				
再開発工事期間中の賑わい創出事業 WS			0	112	0	54				
ふくしまシティハーフマラソン					0	134	0	172	0	202
街なかちびっこフレンドパーク					34	43				
BEEANT SHOWCASE 2023					1	500				
connect connection vol.1					1	120				
connect connection vol.3							5	20		
connect connection vol.7									10	10
FAVES！					1	150				
まち歩き点検 WG			0	1						
結・ゆい・フェスタ			8	8	8	8	2	2	4	4
福島駅前軽トラ市			18	18	20	20	14	14	4	4
賑わい創出プロジェクト					2	40				
再開発工事期間中の賑わい創出 PJ					18	18				
ふくしま元気トーク			2	2						
昆虫食を食べてみよう！！					4	4				
音楽プロデュース研究会 9月コン					1	60				
まち歩き点検			0	1						
SDGs すごろく			13	13						
第1～6回よつかどサロン座談会					0	11				
アキフェス	4	16								
高校生フェスティバル			10	20						
福島うまいもの市					32	37	0	2		
蕎麦とロック	4	4								
あかしや祭	12	106								
FIFA ワールドカップカタール 2022PV			2	8						
MINI ユナフェス	8	70								
塗り絵プロジェクト	6	28								
デザイン科卒業制作展			2	10						
あの café	20	30								
街なかテーマパーク ワークショップ					1	3				
福島を考えるまちづくりアイデアソン	12	13								
キャンドルナイトステージ発表			15	27						

橋高校ダンス部発表会	2	34	2	55					35	35
うえいく？えきなかな通る！社会実験							2	2		
ふくしままちなか音楽祭2025							10	10		
ふくしままちなか音楽祭2026									13	13
福島駅前吾妻通りほこみち社会実験 week さんかくストリート							9	9		
「みんなでクリスマスツリーを設置する ワークショップin駅前にぎわい広場」							18	18		
Nigiwai Open Café							18	18		
遊びながらお金と未来を考える！ ふくしまお金クエスト							9	33		
BEEANT SHOWCASE2024							40	40		
BEEANT SHOWCASE 2025									40	40
第3回にじビアリビング子供広場							12	30		
君に夢中！！							3	3		
音楽プロデュース研究会9月コン							10	30		
フラッグガーランドプロジェクト							4	6		
ワークショップ							4	6		
地域フード応援プロジェクト							3	8		
まちなかこどもの日							0	3	0	3
まちなかこどもの日企画ミーティング							0	1		
Luminous Life									4	27
ナツフェス in えきまえ 2025									4	26
Fairy Squaer 2025 起点									4	7
「空中ブロムナード」 僻地より愛を込めて									4	19
remember									4	4
わらじまつり									0	5
福島駅前交流・集客拠点施設設計 ワークショップ									0	6
ワタナベスタンド									21	21
信夫山ストリート事業									24	24
駅前にぎわい広場ベンチ等企画制作									16	4
合計	68	301	76	279	125	1,204	163	427	187	454

〈分析内容〉

令和7年度のまちづくり活動に参画した学生数（計画掲載事業を活用したもの）は、中心市街地内18活動の実績から計187人、累計参画者数も619人と目標を達成した。

学生のまちづくり活動が増加している背景として、「街なか若者活動促進事業」（学生向けイベント補助）の効果発現によるもののほか、令和5年度より始動した市の取組みである若者と行政、地域をつなぐ「こくりナビ」により学生の参画機会が創出されている。

更に、学生のまちづくり活動への参画意欲や活動実態を把握するために、市内4大学、10高校の学生計1,072人を対象としたアンケート調査（以下、「学生アンケート調査」という。）を実施したところ、まちづくり活動の参画に興味・関心が「ある」との回答は45.2%と前年の34.3%から上昇しており、「参画したことがある」と回答した人も5.5%となり前年の4.9%から上昇していることが分かった。

また、大学生の参画した理由として、「社会勉強のため」が64.7%、「地域の活性化に貢献したいから」52.9%の順に多く、高校生は、「楽しそうだから」59.5%、「部活やサークル等の活動の一環」38.1%の順に多いことが分かった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街エリア価値向上支援事業

学生まちなかイメージUPコンテスト事業

（事業実施主体：（株）福島まちづくりセンター）

事業実施期間	令和3年4月～令和9年1月
事業概要	学生をはじめとした若者団体によるイベント開催やまちづくり活動を支援することで、中心市街地の賑わい創出及び若者のまちづくり活動への参画促進を図る事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和9年1月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：350人（R3～R8累計） 最新値：619人（R3～R7累計） 進捗状況：計画期間5年目にして、実績値（累計）が619人となり、目標値（累計）350人を大きく上回る結果となった。
事業の今後について	令和3年度に実施を試みたが、コロナ感染拡大のため中止となり、令和4年度より街なか若者活動促進事業へ移行となった。

②. 商店街エリア価値向上支援事業

商店街の日イベントコンテスト事業

(事業実施主体：(株) 福島まちづくりセンター)

事業実施期間	令和3年4月～令和9年1月
事業概要	学生をはじめとした若者団体によるイベント開催やまちづくり活動を支援することで、中心市街地の賑わい創出及び若者のまちづくり活動への参画促進を図る事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和9年1月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：350人（R3～R8累計） 最新値：619人（R3～R7累計） 進捗状況：計画期間5年目にして、実績値（累計）が619人となり、目標値（累計）350人を大きく上回る結果となった。
事業の今後について	令和3年度に実施を試みたが、コロナ感染拡大のため中止となり、令和4年度より街なか若者活動促進事業へ移行となった。

③. 商店街エリア価値向上支援事業

街なか若者活動促進事業（事業実施主体：(株) 福島まちづくりセンター）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	学生をはじめとした若者団体によるイベント開催やまちづくり活動を支援することで、中心市街地の賑わい創出及び若者のまちづくり活動への参画促進を図る事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年4月～令和9年1月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：350人（R3～R8累計） 最新値：619人（R3～R7累計） 進捗状況：計画期間5年目にして、実績値（累計）が619人となり、目標値（累計）350人を大きく上回る結果となった。
事業の今後について	学生における年間を通じた賑わい活動が継続するよう、学生と向き合い寄り添いながら情報発信の強化や学生参画を促す取り組みのブラッシュアップを図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

まちづくり活動に参画する学生数は、年々増加しており、目標を達成した。

一方、学生アンケート調査において、参画しなかった理由として、大学・高校ともに、「イベント等を知らなかった」、まちづくり活動に参画する学生を増やすために必要なこととしては、「学生の参画を促す SNS 等による情報発信」の回答が最も多く、依然として、

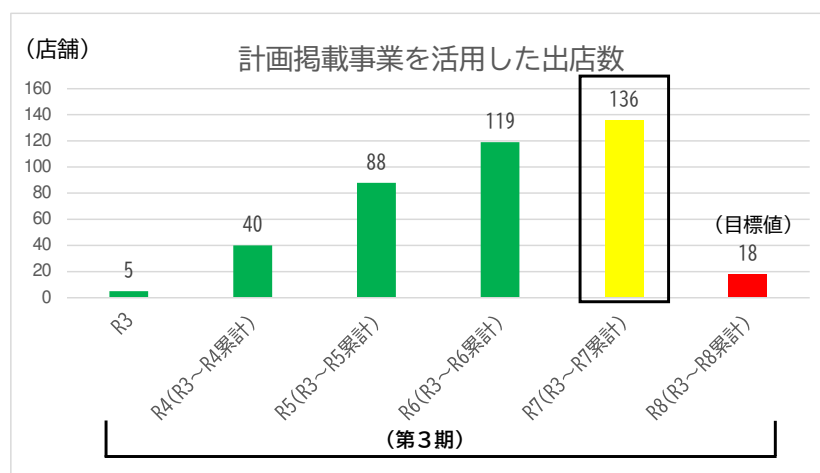
情報発信の強化を求められている。

今後も学生のまちづくり活動への更なる参画を促進していくためには、学生をまちづくりの担い手として捉え、活動への興味や関心の高まりの傾向を的確に把握し、より広く学生に向けた情報発信に注力し、学生が自らの感性で主体的に企画し、活動しやすい環境や体制を定着させることが重要である。中心市街地が挑戦できる「実践のフィールド」として、挑戦が連鎖することで、まちづくり活動に参画する学生数の更なる増加につなげていく。

4)「計画掲載事業を活用した出店数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 91～P. 92 参照

●調査結果と分析



※調査方法：エリア価値向上地区で「商店街エリア価値向上支援事業」を活用し、出店した数により把握する。

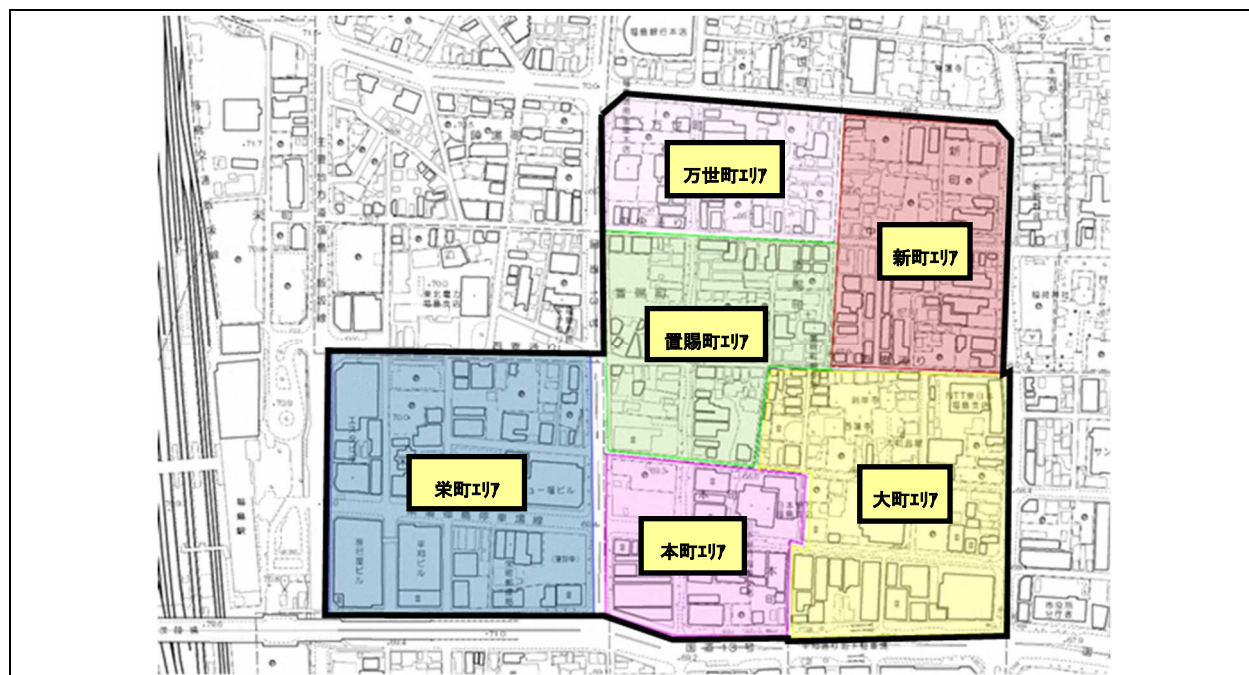
※調査月：各年3月

※調査主体：市

※調査対象：調査方法と同じ

年	出店数 (店舗)
R1	— (基準年値)
R3	5
R4 (R3～ R4 累計)	40
R5 (R3～ R5 累計)	88
R6 (R3～ R6 累計)	119
R7 (R3～ R7 累計)	136
R8 (R3～ R8 累積)	18 (目標値)

＜エリア価値向上地区＞



＜エリア価値向上地区の計画掲載事業活用出店数＞

(単位：店舗)

	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)	令和8年度 (6年目)
本町	1	1	7	2	0	—
大町	1	11	5	4	2	—
置賜町	0	9	19	10	6	—
新町	1	6	5	5	4	—
万世町	1	2	4	3	2	—
栄町	1	6	8	7	3	—
合計	5	35	48	31	17	—

＜分析内容＞

エリア価値向上地区で「商店街エリア価値向上支援事業」を活用して出店した店舗の累計数は、2年目の令和4年度にすでに目標の18店舗を上回る40店舗を達成した。

令和7年度には、「商店街空き店舗対策事業」の活用件数は17件、「街なか再生リノベーション事業」11件の活用のもと、17店舗の出店があり、累計136店舗にまで至っている。

事業活用の内訳として、飲食業13件、美容・理容業4件、アパレル3件、小売業・就労支援2件、サービス業・製造業・不動産業・福祉サービス1件となった。

業種別では、飲食業が46.4%を占め最も多く、次いで美容・理容業が14.3%、アパレルが10.7%と上位3つを占めている。

福島駅東口再開発事業期間中であっても賑わいが失われることなく、産学官民が連携し中心市街地活性化事業を着実に推進していることに加え、「商店街空き店舗対策事業」

及び「街なか再生リノベーション事業」を活用し、起業・創業者を対象として、引き続き支援してきたことが新規出店の発現に寄与したものと考えられる。

業種	計画掲載事業 活用件数	令和7年度新規出店舗数						
		本町	大町	置賜町	新町	万世町	栄町	計
飲食業	13			3	4			7
美容・理容業	4		1	1				2
小売業	2						1	1
アパレル	3			1		1		2
サービス業	1		1					1
就労支援	2			1				1
製造業	1					1		1
不動産業	1						1	1
福祉サービス	1						1	1
計	28	0	2	6	4	2	3	17

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街エリア価値向上支援事業

商店街空き店舗対策事業

(事業実施主体：(株)福島まちづくりセンター、福島商工会議所、福島市)

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	空き店舗への出店を希望する商業者に対し、家賃の一部を補助することで、起業・創業者をはじめとする新規出店を支援し、空き店舗の解消を図ることで、商店街の活性化及び中心市街地の賑わい創出を図り、街なかの魅力とエリア価値の向上に寄与する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和9年1月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：18店舗（R3～R8累計） 最新値：136店舗（R3～R7累計） 進捗状況：令和7年度における計画掲載事業活用出店数17店舗（活用件数28件）であったが、活用内訳として、「商店街空き店舗対策事業」は17件であり、街なかの起業・創業に寄与した。
事業の今後について	商店街の空き店舗や低未利用地の効果的な活用等により新規出店舗数の拡大につなげていく。

②. 商店街エリア価値向上支援事業

街なか再生リノベーション事業（事業実施主体：福島市）

事業実施期間	令和３年度～【実施中】
事業概要	空き店舗に出店を希望する商業者に対し、リノベーション費用等の一部を補助することで、起業・創業者をはじめとする新規出店や魅力ある店舗づくりを支援し、空き店舗の解消を通じて、商店街の活性化及び中心市街地の賑わい創出を図り、街なかの魅力とエリア価値の向上に寄与する事業である。 ※「街なか空き店舗出店支援事業」から移行した事業
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和３年４月～令和９年１月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：18 店舗（R3～R8 累計） 最新値：136 店舗（R3～R7 累計） 進捗状況：令和７年度における計画掲載事業活用出店数 17 店舗（活用件数 28 件）であったが、活用内訳として、「街なか再生リノベーション補助事業」が 11 件、街なかの起業・創業に寄与した。
事業の今後について	商店街の空き店舗や低未利用地の効果的な活用等により新規出店舗数の拡大につなげていく。

③. 商店街エリア価値向上支援事業

創業応援利子補給事業（事業実施主体：福島市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】※令和 7 年度末をもって新規受付終了
事業概要	創業にかかる融資の利子全額を補助し、商店街の活性化及び中心市街地の賑わい創出を図り、街なかの魅力とエリア価値の向上に寄与する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和３年４月～令和９年１月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：18 店舗（R3～R8 累計） 最新値：136 店舗（R3～R7 累計） 進捗状況：令和 7 年度における計画掲載事業活用出店数 17 店舗（活用件数 28 件）であったが、活用内訳として、「創業応援利子補給事業」が 8 件、街なかの起業・創業に寄与した。
事業の今後について	現在までの支援により新規創業の促進が図られ、所期の成果を一定程度達成したと判断し、令和 7 年度末をもって新規受付終了 ※R8.3.31 までの申請に係る継続分として R8・R9 交付あり

●目標達成の見通し及び今後の対策

既に目標は達成し、今後とも商店街における新規出店ニーズや起業・創業の出店は続くことが見込まれることから、福島駅東口再開発事業のインパクトを見据えた効果的な支援により、魅力的な個店の増加につなげていく。

更に、新規オフィスへの開設支援も行うとともに、「まちなか立地集積支援事業」により、民間投資を呼び込み魅力あるまちづくりを創出していくことで、魅力ある市街地づくりを推進し、更なる新規出店数の増加に取り組んでいく。